自動車保険

自動車アフターマーケット高度化コンソーシアム

自動車関連の環境配慮情報提供システム「Wターミナル」が本格稼働

昨年12月に発足した「自動車アフターマーケット高度化コンソーシアム」の第1期の参加企業が確定し、同コンソーシアムが提供する自動車関連の環境配慮情報提供システム「Wターミナル（W-terminal）」がこのほど本格稼働した。合わせて「車から始まる環境配慮行動」の「エコ☆モ運動」も北海道、大分県で開始し、同コンソーシアムの目的であるエコ・ユーザーの育成に向けた取り組みを展開する。6月8日に行われた記者会見で、同コンソーシアム会長（早稲田大学環境総合研究センター准教授、㈱早稲田環境研究所代表取締役）の小野田弘士氏は「これを契機に参加メンバーの拡充を図り、自動車アフターマーケットの高度化に寄与する活動を展開していきたい」と述べ、今後の社会的広がりへの期待を示した。

小野田氏

清水氏

有賀氏

同コンソーシアムは、自動車リサイクル部品の利用、環境に配慮した整備の実践を促進するなど、自動車アフターマーケット（整備・メンテナンス、板金、オイル交換、廃車車両など）の高度化を図り、循環型社会・低炭素社会の構築に向けた取り組みを産学官連携で推進することを目指して設立された。

幹事企業・団体は、㈱早稲田環境研究所、早稲田大学環境総合研究センター、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会グリーンポイントクラブ、㈱地球健康クラブ。第1期参加企業・団体（6月8日時点）は、オリックス自動車、富士火災、カーコンビニ倶楽部、イードリーマー、日本ユニシス、北海道エコ行動普及促進協議会（コープさっぽろ、前述の幹事企業・団体など、北海道経済産業局、帯広市がオブザーバー）、BSサミット事業協同組合。損保協会がオブザーバーで参加している。

損保業界、整備工場、ユーザーなどと連携したGPS（グリーンポイントシステム：自動車リサイクル部品業界が進める同部品の環境負荷低減効果の定量化）の拡張、自動車アフターマーケットでのエコ・ポイントシステムのデータベースの高度化・拡張とその応用の検討、同マーケットでのエコ設計と実証などの取り組みを推進。小野田会長は「各方面からのニーズを幅広くくみ上げながら、コンソーシアムをプラットフォームとして、ユーザーの環境配慮行動を誘発していきたい」と述べ、今後の活動への意欲を示した。

「Wターミナル」は100社を超える整備工場が参加する部品受注システムで、CO2削減量を数字化して記載した、いわば「環境見積書」と呼べる見積書や納品書を作成するのが特長。システム供給先に合わせたカスタマイズもできる。供給から利用まで一貫したトレーサビリティー（追跡可能）システムで、物と情報の一体化を実現し、リサイクル部品の品質向上などにつながると期待されている。グリーンポイントクラブの清水信夫会長は「整備工場はもちろんのこと、ユーザーにも『環境整備』の意識を高めてもらうことが狙い」であることを強調した。

「エコ☆モ運動」は「次世代のために、車で環境配慮行動をしよう」というもので、具体的には、①オイル交換など燃費向上につながる環境整備の実施②修理時のリサイクル部品の積極活用③事故を起こさず、環境に優しい運転となるエコ安全ドライブの実践―などに取り組み、エコモ宣言を行う。北海道では北海道エコ行動普及促進協議会とグリーンポイントクラブ北海道参加事業者を中心に、大分県では生活協同組合コープおおいたを中心に運動を展開する。

エコ☆モ運動―車から始まる環境配慮行動―もスタート

オブザーバーで損保協会も

富士火災などが第1期参加企業に